

3. 中山間地における小学校防災教育を通じた防災意識向上に関する実践的研究

小池則満・服部亜由未・小穴久仁・落合鋭充・森田匡俊・岡田佳亮・正木和明

1. はじめに

近年、大学と地域が連携して、防災力・防災意識の向上をはかる様々な取り組みがなされている。また将来の防災リーダーの育成も必要不可欠であり、東日本大震災を教訓に各地の小中学校で盛んに実施されている防災教育をいかに地域に展開していくかが課題と言える。本研究では大学生による児童との同行登校による危険箇所調査を皮切りに、通学路の防災マップ作り、地域の実情を探るアンケート調査、防災訓練にて防災学習発表会による地域への展開を小学校、地域と連携して行った。一連の実践的活動を通じて地域防災活動がどのように行われたか検証する。

2. 常磐東学区概要

調査対象地研究対象地域として、愛知県岡崎市の常磐東小学校を取り上げる。平成26年度の児童数は51名と、小規模な小学校である。愛知県岡崎市の北西部に位置し、新居、大柳、蔵次、小丸、安戸、米河内の六町からなる山間部の学区である。県道477号が主要な道路であり、それに沿って、青木川が流れている。学区の面積は約1500ha、人口は約1300人である。岡崎市には土砂災害警戒区域が192か所、土砂災害特別警戒区域が166か所あるが、そのうちの土砂災害警戒区域42か所、土砂災害特別警戒区域37か所は常磐東学区にあり、土砂災害の危険度が非常に高い地域である。一時避難場所、風水害の避難所になっている常磐東小学校の周辺も急傾斜地崩壊危険箇所に指定されている。

3. 活動の概要

本研究では平成25年度5年生11名を対象とした防災教育への参与観察を実施した。表-1に児童への防災教育の内容や防災教育に影響され、地域がどのような活動をしたのかをまとめる。なお、本研究では2013/9/2～2014/2/20の期間をⅠ期、2014/6/13までの期間をⅡ期、2014/8/31までの期間をⅢ期と分類して考察する。

Ⅰ期は揺籃期と位置づけられる。シェイクアウト訓練を防災学習へのきっかけにして、大学生との同行登校による通学路危険箇所調査を実施した。同行登校ではチェックシートを使用し、大学生は写真撮影を行った。通学路にある土砂災害警戒区域等を重点的に観察した。同行登校を「気付き」とし、撮影した写真や記入したチェックシートを利用して、大判の白地図に付箋紙、シール、写真を貼り付けて図-1のような手作り防災マップを作成した。このマップをブラッシュアップし、WebGISによるマップ作成も行った。これらの活動を通じて、児童は防災に関心を高め、児童たち自らの提案で学区の特に注意を喚起したい場所10カ所にゆるキャラ看板(防災情報を記入した看板)を設置した。ゆるキャラ看板は児童が考えて作成した図-2のような作品である。二月には学内発表会を行った。学内発表会では児童により、防災倉庫の設備増強と公衆電話の設置を提案がされた。これにより地域に新しい公衆電話の設置が決まった。



図-1 手書きの防災マップ



図-2 オリジナルゆるキャラ看板

表-1 小学校と地域の活動概要

	実施日	小学校	地域	活動の詳細
I	2013/9/2	○		全校児童対象にシェイクアウト訓練実施。防災学習へのきっかけとなる
	11/13	○	○	大学生との同行登校による通学路の危険箇所調査を実施した
	11月	○		学区の危険箇所に防災情報を記入した看板（ゆるキャラ看板）を設置した
	11/19	○		同行登校の結果を白地図に記入、手作り防災マップを作成した
	2014/1/21	○		手作り防災マップをeコママップに入力。学校のホームページより公開した
	2/20	○	○	学内発表会を実施。他学年を対象に防災学習の成果を発表
II	3～5月		○	学内発表会を受け、学区に5台の公衆電話の設置が完了した
	5/8		○	米河内町が児童と共に町の防災マップを作成したいと依頼
	5/10		○	消防団と地域総代により8月31日の防災訓練にて児童の防災発表を企画
	5/26		○	学内発表会を受け、防災倉庫の増強が行われた
	5/30		○	豊田市等順寺を訪問。昭和7年7月の岡崎豪雨についてヒアリング調査を実施
	6/2		○	米河内町防災マップ作成を岡崎市に申し入れ
	6/13	○		児童が地域の実情を探るべく、大学と連携し、アンケートを作成
III	6/14		○	米河内町役員6名によるマップ作りグループが発足し防災マップ作りが始まる
	6/20	○	○	6月13日に作成したアンケートを各組長に展開し、アンケート調査を実施
	6/27		○	市役所にて防災訓練の打ち合わせ。児童の防災発表会を実施することが正式決定した
	7/15		○	米河内町の危険箇所調査を全三回実施
	7/17	○		6月20日に実施したアンケート調査結果を大学が報告。アンケート集計は児童も参加
	8/9		○	防災訓練の要綱が完成。回覧板等で児童の発表会の実施の旨を伝え、参加を促す
	8/21	○	○	広島土砂災害と地形、地質がよく似ていることから取材が入った。児童も取材に応じた
	8/31	○	○	地域総合防災訓練にて、住民に防災学習の成果を発表した。その後、参加者に意識調査を実施

Ⅱ期は萌芽期と位置づけられる。児童自ら発案で学区住民の防災への意識を調べるアンケートを作成した。また、児童の活動に刺激され、地域が活動を開始した。学区役員による愛知県豊田市の等順寺へのヒアリングを通じた過去の災害調査が実施された。昭和7年の岡崎豪雨では県道上30cmまで青木川が増水し、氾濫、洪水を起こし、三つの橋が流失した。また、土砂災害による道路の寸断、約2、3割の水田、耕地に被害があったことが明らかになり、地域の災害リスクを再認識した。学区役員は児童と共に防災マップを作成したいと小学校に依頼するとともに、学区住民にも防災への関心を促すべく、岡崎市地域総合防災訓練の通常のプログラムに加え、児童による防災発表会の実施を検討するなどの活動が見られた。

Ⅲ期は発展期と位置づけられる。児童は作成したアンケート結果から学区の人の意識を知ると共に、地域の課題を洗い出した。さらに、岡崎市地域総合防災訓練にて防災学習発表会を実施し、地域への展開を行った。米河内町では本格的に防災マップの作成に本格的に乗り出し、役員たちによる防災マップ作りグループが発足し、街歩きや市役所との交渉を開始した。防災マップは2015年3月までの完成、全戸配布を目指して進められた。これらの活動進捗に沿って3回に分けてアンケート調査を実施した。集計作業は大学が行い、その結果は逐一学校側にも報告し、情報共有を図った。

4. おわりに

一連の活動を通じて児童が「地域の防災リーダーになりたい」との意識を持つに至り、地域が児童の防災教育に影響され、地域が防災マップの作成や公衆電話を設置するなど、具体的な取り組みが小学校から地域に広がっていく過程を参与観察することが出来た。こうした活動を一時的なものとするのではなく、いかに継続・発展させるかが今後の課題である。

これらの成果をとりまとめ、独立行政法人防災科学技術研究所主催の第5回e防災マップコンテストに小学校から応募したところ「優秀賞（こども防災賞）」を受賞した。熱心な活動を展開された小学校の皆さん、地域の皆さんに、心よりお祝い申し上げる次第である。

第5回e防災マップコンテスト 岡崎市立常磐東小学校

<http://bosai-contest.jp/emap2014group-award/group.php?gid=10798>

